

新晃工業

『空気』で未来を拓く』の実現目指す

新設計システム 最適用開始 最適解提供の体制構築

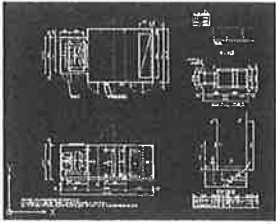
新晃工業（社長 末永 聡氏、本社・大阪市北区南森町1-4-5）の2023年における取り組みでまず挙げられるのは、SIMAプロジェクトで「新設計システム」の運用開始。昨年12月18日付で公表した。

SIMAプロジェクトは「お客様のニーズと当社のノウハウをデジタル化することで、生産体制の労働集約型からの脱却に大きく貢献する」（同社）もの。

新設計システムは、顧客からの設計仕様と現場ごとの要望を初期設計段階から3D画像で視覚的に捉えることを可能とし、設計者の構造理解促進に加え、自動設計範囲を拡大することで精度とスピードの向上を両立させることができるという。対象機器は標準型空調機からスタートし、順次拡張していく予定。同社では「現場ごとの設計仕様ニーズに迅速に対応し、最適解を提供できる

体制構築を目指す」としている。

製品軸では、室外機一体型ヒートポンプ空調機「オクシオシリーズ」の新製品「オクシオGT」のリリースを開始した。同製品は、設置と電気設備工事のみで使用できるため施工期間、施工コスト削減が可能。試運転調整の後、納品されるので現場での冷媒配管工事や試運転調整の手間がかららない。十分な外気処理能力を持っているので全熱交換器で外気処理する必要がなく、小規模ビル等での新鮮外気の導入量アップに貢献する。また、カーボンニュートラル社会の実現に向けた新たな空調和機のコンセプト「Green AHU」を策定し、これを具現化したコンセプト・スタディモデルを発表した。具体的な市場投入時期は決まっていないものの、業界で初めて外板に国産間伐材を採用するなど多様な要素を盛り込み、持続可能な社会に貢献できるAHUのあり方を提案するものとして注目されそうだ。



㊦ これまでの設計システム
㊧ 新設計システム

昨年11月8日に公表した、同社グループの新たな成長推進を骨子とする新中期経営計画「move. 2027」(2025年3月期～2027年3月期)では、「バリューチェーンをアップグレードする」加速ステージ」と位置づけ、連結売上高560億円、連結営業利益86億円、ROE(自己資本利益率)10%以上、配当性向50%以上等の目標を設定した。

事業戦略として「バリューチェーンを活かした成長領域の拡大と既存事業の深耕」を掲げる。事業・基盤強化に87億円を振り向ける計画。長期ビジョン「空気」で未来を拓く』の実現を目指す歩みが始まるとうとしている。

業戦略達成のための投資額を3年間で135億円に拡大し、データセンタ向け・ヒートポンプAHU開発・販売体制強化、成長領域拡大に向けたM&A投資や蓄エネ・水素冷却など成長領域・新規市場開拓に48億円、NO.1開発体制の追求・生産体制強化など既存事業・基盤強化に87億円を振り向ける計画。長期ビジョン「空気」で未来を拓く』の実現を目指す歩みが始まるとうとしている。